



Charming Times

特定非営利活動法人CHARM
Center for Health and Rights of Migrants

祝☆10周年

いつもCHARMを応援いただきありがとうございます。
ございます。

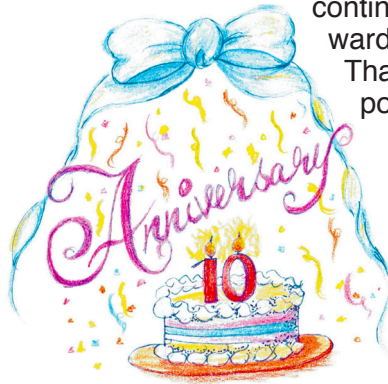
さて、このたびCHARMは設立10周年を迎えました。そこで今回のCharming Timesは“10周年特別記念号”と題し、6月に行われた総会・記念集会の報告に加え、CHARM創設に携わっておられたお二方を迎えての対談インタビューや、かつてCHARMのスタッフとして協力くださった方々からのメッセージやなどを紹介します。これまでの10年を振り返るとともに、さらなる10年先にむけて、新たな一歩を踏み出したいと思えます。

今後とも、どうぞCHARMをよろしく願ひいたします。

10th Anniversary Celebration

This year marks the 10th anniversary celebration of CHARM. We commemorate this by presenting you with the “10th Anniversary Special Issue” of Charming Times. In addition to the report about the General Assembly and anniversary celebration held in June, we interviewed two people involved in the founding of CHARM and requested messages from former staff of CHARM. While we look back this past 10 years of CHARM, we hope you join us while continue stepping forward towards the next 10 years.

Thank you for always supporting CHARM.



CHARM は「すべての人が健康(すこやか)に過ごせる社会」を目指して、日本に暮らす外国籍住民も医療・福祉にアクセスできる環境を地域の人々や他機関と共に創っています。又HIVと共に生きる人々を多言語で支援しています。

CHARM is working for the realization of a “society where all people can lead a healthy life.” To do so, it aims to create an environment so foreign residents can gain access to medical and welfare services. We also provide multi-lingual support for people living with HIV.

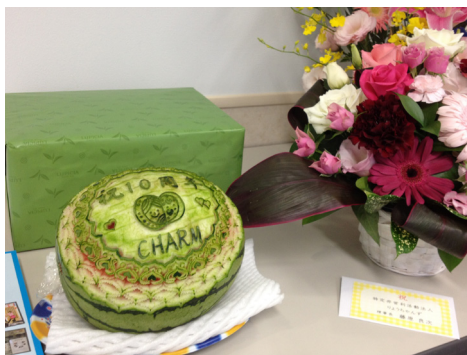
青木 理恵子

2012年6月17日(日) 2時から、大阪市住まい情報センター研修室にてCHARM の10周年を記念する集会を開催いたしました。当日は、CHARM会員やCHARMの活動に関わっているメンバーの他、日頃から関わりのある関係団体の代表や大阪府、大阪市の担当者も参加して総勢45名の集会となりました。

プログラムは、ブラジル人の柳沢マリオさんと今年度の実習生の1人である川崎愛さんのバイオリンと三線(さんしん)のアンサンブルでスタートしました。人生の光と陰を音で表現したミニコンサートは、参加した人々の心に響きました。その後、ブブ・ド・ラ・マドレーヌさんにエイズとアートをつないだアーティスト古橋禎二さんを語っていただき、ブブさん達のアーティスト集団「AIDS Poster Project」が作製したスライドショー「最も情熱的な友人」を見ました。

コンサートからスライドショーまで音楽と語りと映像という“感じる”ことを中心とした時間となり、参加された一人一人がこれまでの10年の時の流れの中で経験してきたこと、出会った人達を回想されたのではないかと思います。私は、CHARMの最初から事務局に居て実に多くの人達と協同し、支えられ、実に良く笑い、感心し、また涙もしました。

CHARMの最初は、医療機関に運び込まれた外国籍のエイズ患者との出会いでした。在留資格もなく医療保険に加入もしていない、日本の社会保障の枠組みの外に置かれた人に寄り添った人々のこの状況を何とかしなければという思いが団体を作ることにつながっていきました。CHARMはその時々の必要に応じてサービスの形は変わっていきますが、一人一人に寄り添うという姿勢はいつも基本にしていきたいと願っています。





The 10th anniversary program of CHARM was held on June 17, a Sunday, from 2pm at Osaka-city Sumai Information Center Seminar Room. 45 people attended including CHARM members, program staff and representatives from HIV organizations, civic organizations, Osaka prefecture and Osaka city.

The event opened with a violin and Okinawa sanshin ensemble by Mario Yanagisawa from Brazil and Ai Kawasaki who is one of CHARM's intern this year. The two instruments expressed the light and dark sides of life through music which moved the audience. It was followed by a talk by Ms. Bubu De La Madleine on Teiji Furuhashi, an artist who linked art and AIDS. After her talk she showed a slide show entitled "The most passionate friend" produced by the AIDS Poster Project.

From the concert to the slide show, it was a time spent focusing on stirring the emotion which may have helped the participants to reflect on their experiences and the people they have met during the past 10 years. I have joined CHARM as a staff since it started. This gave me a chance to work with a lot of people, receive tremendous support, laugh a lot, learn a lot and weep at times.

CHARM started after having met with an AIDS patient who happened to be a foreigner but did not have a proper visa and was not covered by any health insurance scheme. We felt we need to do something to provide humane care for people excluded from Japanese Social Security system. Through the years, CHARM may have changed its programs and services depending current needs, but one thing that does not change is its attitude to support individuals.

CHARM設立の立役者である横田恵子さんと榎本てる子さん。今回このお二人にインタビューをお願いし、CHARM設立時の経緯や、今後のCHARMへの期待などをうかがいました。

—CHARMをつくることになったきっかけを教えてください。

横:ある時、同じエイズカウンセラーとして顔見知りだった榎本さんと病院のカフェで話す機会を持ちました。そこで榎本さんが「理想の外国籍住民支援」について熱く語るのを延々1時間ほど聞いたのが、CHARM立ち上げのきっかけです。当時はお互い定職もお金もない身なので、「実現は不可能やろうなあ」と思っていましたけど(笑)その後、バザールカフェで榎本さんと共に青木さんと話し合いました。初対面で意気投合し、「理想の女性だな」と思ったのを覚えています。

榎:その頃、外国籍住民の置かれている状況がとにかくひどかった。「もっと早く来てたらこんなことには…」というケースもあり、病院も困っていました。そんな中、個人で支援する限界を感じていたのです。外国籍住民への支援を実践する青木さんや私と、アドボカシーを基盤に“社会の変革”を目指す横田さんが、それぞれの持ち味を活かして協同することができました。

横:そうこうしているうちに、大阪府の課長や大阪市の職員・保健師さんなど、行政からのバックアップも受けることができたんです。

榎:キリスト教のおばあさんからいただいた寄付金を最初の活動資金にできたのも助かりました。

横:そう。「神の采配」とでも言うべきか、いろんなことがうまく噛み合ってCHARM設立に至りました。

榎:行政、NGO、医療従事者、研究者たちと協力してCHARMを立ち上げられたのがよかったと思っています。

横:CHARMのような市民団体に政治力などありません。だからこそ、周囲とのネットワークを組んで、社会に投げかけていくしかないと思ったんです。同じような経験をしてきた仲間と怒りを共有し、そこから新しいものをつくるエネルギーを生み出しました。またCHARMが皆を受け入れるあたたかい場所だからこそ、周りの人たちもついて行き、それぞれの力を発揮するのだと思います。

—これからのCHARMにどのようなことを期待されますか？

榎:様々な事業を展開する中で、やはりCHARMの原点を忘れないでほしいと思います。原点というのは、人を大切にしていくということ。資金を得るために評判を上げたり権威を高めたりするのではなく、社会に必要なものを、人との出会いを通してつくっていくことです。そういうことをするのが難しい時代にはなっているけれど、まだまだCHARMはできると思います。

横:その通り。関西で人々に支持される活動をしていけば、人々が助けてくれるのではないかと思います。

榎:そしてCHARMの想いを引き継いで運営してくれる若い人たちを育てていくことも、今後の大きな課題ではないでしょうか。

横:今の若い人たちは、HIVがあって当たり前の時代に生まれてきました。HIVだけでなく、性感染症やそれをめぐる暴力の問題など、若い人たちの親和性や当事者性も含んだ新たな発想や切り口がこれから必要なのかもしれません。

榎:一方でやはり外国籍住民が情報やサービスにおいて不平等な状況に置かれていることは

明らかで、その人たちの健康や権利というのは私たちのテーマであり、絶対にぶれてはいけなところだと思います。

横：おっしゃる通り、マイノリティーの中のマイノリティーである人たちへの支援を丁寧にやることが、ひいては医療全体を変えるのです。

横：CHARMは土曜日常設HIV検査事業をきっかけに医療従事者の方々との関わりが広がってきました。このように広がったのは、いろんなタラント(才能・持ち味・専門技能)を持つ人たちが活かされているということだと思います。

横：CHARMは言ってみれば小さな船です。様々なタラントを持つ人たちが集まる中、ミッションに向けて、バランスを保ちながら前に進んでいかなくてはならない。そのバランス感覚はとても重要だと思います。その舵取りを担う次世代のスタッフが現れることを期待したいですね。

聞き手：田島千里

I interviewed two founding members of CHARM, Ms. Keiko Yokota (K) and Ms. Teruko Enomoto (T), about how CHARM was established and their visions of CHARM for the future.

-Can you tell me how CHARM came about?

K: I happened to have a talk with Teruko at a hospital Café where she passionately shared with me for about an hour her thoughts about the “ideal way to support foreigners”. That was the beginning of CHARM. I did not think it would become reality as neither Teruko nor I had stable jobs or money. Later, I talked with Rieko Aoki together with Teruko at the Bazaar Café in Kyoto. We had very similar outlooks on the world and I still remember that I felt Rieko was an ideal woman.

T: The situation for foreign patients in Japan was dreadful. I experienced cases where foreigners, if they had had access to a hospital a little sooner, could have been saved – that is, they didn't have to die. Hospital staff did not know how to handle foreign patients. I dealt with these patients as a counselor but soon felt helpless and realized that we needed a team. I felt case workers who would do individual care like Rieko and myself, along with a social advocator like Keiko, had to work together utilizing each person's skills and strengths.

K: Gradually, the hospital staff in charge of infectious disease in Osaka prefecture and Osaka city started to collaborate with CHARM.

T: I am glad we were able to start CHARM with the cooperation of local governments, other NGOs, medical professionals and researchers.

K: A civic organization like CHARM does not have political power. Thus, we had to network with other organizations and professionals to be heard and to influence society. We turned our questions and anger into energy to create something new. Since CHARM is an openhearted place which accepts everyone, people feel free to express their abilities

- What do you expect for CHARM in the future?

T: I hope CHARM will not forget its starting point in all its undertakings. That is, the person is the most important in CHARM's services. We are not after recognition or power in order to get funds but we create what the society needs through encounters with people. It is becoming difficult, but CHARM can still do it.

K: I agree. In western Japan (Kansai) people help us if they see that the services are worth supporting.

T: It is also important to nurture the younger generation and hand over CHARM to them.

K: That is right. Young people today are born in a society where HIV is a part of reality. We need to be creative when we try to think how we can transmit information effectively. We might need to take into account other areas that young people are more familiar with.

T: On the other hand, foreigners are still left out from information and services and treated unequally. In that sense, "Health" and "Rights" remain our basic theme which we should not forget.

K: That is right. By thoroughly supporting a minority within minorities, this will lead to evolution in the medical system.

T: CHARM is fortunate to have a wide network with medical professionals through the Osaka Saturday Awareness Testing program, reflecting how people with various talents (abilities, tastes, professional skills) can be utilized.

K: CHARM is like a small ship. While people with different talents board the ship, it is important to keep balance while heading on the mission. The sense of balance is important. I wish for the staff members on our team to understand the direction and balance on the journey.

Interviewer: Chisato Tashima

エレラ ルルデス

CHARMの設立は、移住者とHIV陽性の方たちへの支援において画期的なことでした。

私がCHARMのメンバーになったのは、すべての人が健康に関するサービスに平等にアクセスできるべきと考えるからです。CHARMは、日本にいる移住者やマイノリティーの方をいろいろなかたちで支援する機会を私に与えてくれました。

2002年には、性と生殖の健康、HIV/AIDSやSTIなどに関する情報を提供する担当になりました。7年間にわたり、週に1回、CHARMの電話相談に携わりました。ほとんどがスペイン語、たまに日本語や英語で対応していました。

CHARMに関わるようになって間もなく、私は正式にCHARMのスペイン語通訳者になりました。CHARMは神戸や姫路、奈良、滋賀、京都、三重、名古屋の医療機関から通訳を依頼されるため、各所に赴き、HIV検査前後の情報提供や、カウンセリング、HIV陽性の方の健康診断、AIDSによって引き起こされる病気の治療説明、手術などの通訳を行いました。

私が最も大事にしていた活動は、HIV陽性の母親とその子どもたちへの支援でした。健康についての情報を共有し、彼らをエンパワメントし、妊娠や子育ての期間に同行するのはとても学ぶことが多くやりがいのある仕事でした。

現在、私は福岡に住んでおり、日本赤十字九州国際看護大学の准教授として働いています。大阪から遠く離れたところから、CHARMの活動をお手伝いする準備はいつでもできています！

CHARMのスタッフや会員の皆様の10年間の努力に…おめでとうございます！



松岡裕子

この度はCHARM設立10周年を迎えられ、おめでとうございます。

10年前、生野区のとある社会館の一室からスタートしたCHARMでの思い出というと、ガレージ風な造りにビニールカーテンを取り付けただけのチジミ屋のオモことの世間話、天六のマンションに移った後は、ママチャリを走らせ検査場や行政を往復したり、検査スタッフのシフト調整に翻弄したりする合間に、鼻をきかせ、天満の市場や天六の路地裏で発見したかすうどん屋、スルメや小松菜のキムチなどのお惣菜。なんといってもCHARMに集う仲間がふるまってくるエスニック料理は絶品。時に、青木さんとのコーヒータイムも忘れられない思い出。それは専門経験も社会人としての作法もない自分の至らなさと正面から向き合い、導いてくださる対話の時間で、この時のコーヒーは格別にながかった・・・(笑)。

CHARMは、地域、言葉、職業、性別、思想、思考も異なる様々な人々が行き交い、留まり、巣立ち、いつだって戻れる、穏やかで懐の深いところです。これからも、人々の安心な暮らしと健康が守られ、笑顔が絶えない地域づくりに貢献するCHARMを応援しています。

Lourdes Herrera

CHARM's establishment was a milestone in the support of migrants and PLHIV. I became a member of CHARM's because I believe that everybody deserves equal access to health services. CHARM gave me the opportunity to support migrants and minorities in Japan in several ways. In 2002 I was assigned to provide information on Reproductive and Sexual Health, HIV/AIDS and STIs, etc.; for 7 years, once a week, I answered the phones of CHARM, mostly in Spanish, occasionally in Japanese and English.

Shortly after joining CHARM I became its official Spanish interpreter. CHARM receives requests for interpreters from medical institutions in Kobe, Himeji, Nara, Shiga, Kyoto, Mie, and Nagoya. I have been there to interpret during HIV pre and post-test information, counseling, PLHIV checkups, ARV therapy explanations, surgery, etc.

The activity I cherished the most was the support of HIV positive mothers and their children. Sharing health information, empowering them, accompanying them during pregnancy and child rearing was an inspirational challenge.

Currently I live in Fukuoka; I work as Associate Professor at The Japanese Red Cross Kyushu International College of Nursing. Far from Osaka, I am always ready to support CHARM's activities! Congratulations to the staff and members of CHARM for 10 years of efforts!

Yuko Matsuoka,

A first-year staff member

CHARM started in a small room next to a church in Ikuno-ku ten years ago. I have many and various memories of that time. There was, for example, a Korean eatery in front of CHARM that was just a garage with a plastic curtain where we ate every day at lunch and talked with Omoni (mother). After we transferred to a "one-room mansion" in Tenroku, while we were busy going back and forth between our office and the testing venue by our old bicycle called mamachari-BMW, I encountered many delicacies in Tenma market and many kinds of eateries around there. The best of all, though, were the special menus prepared by CHARM members who sometimes brought various dishes for us to share. Coffee time with Aoki-san was another unforgettable experience. She faced me back then when I was still immature and lacking professional experience and talked quite frankly with me at times. She provided constructive criticism and strict supervision during those coffee breaks.

CHARM is a place where people regardless of national/ethnic origin, language, profession, sexuality, values, or way of thinking can come and go, stay, leave and always come back again. It welcomes everyone. I wish to support CHARM so that it can keep working for the community, protecting people's lives and health, and filling the community with smiles.

ニコール コマファイ ハイナリツヒ

私は2010年4月から2012年3月までCHARMでスタッフとして働きました。この経験は、日本での滞在中最も良かったことの一つです。私がCHARMで仕事を始めた頃、CHARMは土曜日常設HIV検査事業(SAT)の委託を終了し新たな状況やニーズに対応していく時期でした。

私の主な仕事は、外国籍住民への健康促進プロジェクトを作り上げることでした。フィリピンコミュニティや地域の保健センター、地域組織や多くのボランティアの協力を得ながら、京都で「健康フェスタ」を実施することができました。私たちはそこで、無料匿名のHIVと結核の検査、医師や看護師による健康相談、乳がん自己チェックや生活習慣病など健康に関するワークショップを提供しました。「健康フェスタ」が京都市で毎年恒例のイベントとなり、今年で3年目を迎えているということを私たちは誇りに思います。また、小さな規模での同様のプログラムを大阪や滋賀の外国人コミュニティで始めました。

福祉や医療へ容易にアクセスできない人々にサービスを提供するこの仕事は、やりがいがあるだけでなく楽しいものでした。一緒に働く人たちがサービスを利用する側の人たちと関わるのはとても楽しかったです。CHARMの手助けをきっかけに自分の問題を乗り越えるなど、たくさんの人たちの姿に感動を覚えました。苦難を抱えている人も、CHARMでの昼食やティータイムの時には笑顔を交わし、笑い、お互いに学び合います。人間は助けにくれたり一緒に戦ってくれたりする人がいるかぎり、まだ立ち上がることができるということ、彼ら・彼女らは証明してくれました。

CHARMを離れるのは難しい決断でしたが、CHARMの一員であったことやそこでの友達を大事にしていきたいと思います。この10年間、CHARMが外国籍住民やHIV陽性の人たちにサービスを提供してきたのを祝いすると同時に、これから先の10年間もCHARMの任務や展望を達成し続けることに引き続き関わっていきたくと思います。



東ティモール・アイレウ県の子どもたちと
with children in Aileu, East Timor

Nicolle Comafay-Heinrich

Though my time with CHARM was short and recent, I can say working with CHARM from April 2010 to March 2012 was one of the best things that happened to me during my stay in Japan. I became a part of CHARM at a time that it was encountering a lot of changes, having ended its Saturday Anti-body Testing (SAT) program, and adapting to the new situation and the needs of its stakeholders.

My main job was to help organize the health promotion project for foreign residents. With the help of the Filipino community, the local health center, local organizations and many volunteers in Kyoto, we were able to conduct a whole day Health Fiesta. We were able to offer free and anonymous HIV and TB testing, health consultations with doctors and nurses, health-related workshops, including self-breast examination and lifestyle related diseases, and many more. We are proud to say that this has become an annual event in Kyoto and now on its third year. CHARM has also started conducting the same program in smaller scale with some foreign communities in Osaka and Shiga.

Working for CHARM was not only self-fulfilling because you help in its mission to provide services for people who could not easily gain access to welfare and medical services, it was also fun. It is fun because of the people I work with

and most especially the people we work for. I have met many people who have inspired me with their stories of overcoming their problems with a little help from CHARM. And yet, despite their experienced hardships, we smile, laugh and learn from each other while we enjoy lunch and tea time at CHARM. They are proof that people can still stand up and fight as long as there is someone to help them or fight along with them.

It was a hard decision to leave, but I will treasure having been part of CHARM and the friends I have made there. While we congratulate CHARM on its 10th year of providing service for foreign residents and PLWH, please join me in helping CHARM continue providing 10 more years of fulfilling its mission and vision.



「おおさかもん」 by 福嶋真一

今回のおおさかもんはスイーツです。お店は地下鉄本町駅と堺筋本町駅の間くらいにある「パティシエ コーイチ」です。このオーナーの斉藤耕一さんは、リッツカールトン大阪の総製菓長の経歴をお持ちのパティシエさんだそうです。お店のショーケースにはたくさんの種類のケーキが並んでいますが、どれもビジュアルの良さは抜群で、まるで宝石箱のようです。

ここでの私のお勧めは焼き菓子の「マロンケーキ」です。皆さんは毎年9月から翌年の1月まで売り出される岐阜県中津川「すや」の栗きんとんを御存知でしょうか。栗を潰して少量の砂糖を加えて煮たものを茶巾絞りにしたもので、口の中に入れるとほのかな甘さと栗の香りが広がる極上の一品です。

この「マロンケーキ」は「栗きんとん」の洋菓子版といったところ です。粉類を一切使わずマロンペーストだけで焼き上げたパウンドケーキで、中に細かく刻んだマロングラッセが入っています。とても濃厚でマロンの味がしっかり楽しめます。また紅茶、特にダーズリンティーとの相性もバッチリです。

ケーキはどれも小ぶりです。甘すぎずあっさり系のケーキです。まさに大人のためのスイーツです。なお大丸心齋橋店にも出店されているので、ぜひ一度お立寄りになり至福の時間をお過ごし下さい。

Osakamon by Shinichi Fukushima

This issue of Osakamon is all about sweets. This shop called “Pattisei Koichi” is located between the subway stations Honmachi and Sakaesuji Honmachi. Mr. Koichi Saito, the owner of this shop, is a pastry chef who worked as the head of the confectionery department of Ritz Carlton. Although many different kinds of cake are lined up at the shop’s display case, all of them are visually exquisite as if looking at a jewelry case.

My recommendation here is the baked chestnut cake. Are you familiar with the Kurikinton (sweet chestnut) of Suya from Nakatsugawa, Gifu, which are sold every year in September to January of next year?

The boiled chestnut is mashed and after adding a little sugar, passed through a tea cloth. When you put it in your mouth, it is an exquisite pastry with very delicate sweetness and the distinct aroma of chestnut.

This “Marron cake” has been called the western style version of “Kurikinton.”

This pound cake is baked only with chestnut paste without using any powder at all, and inside it has finely chopped marron glace. It is very thick and you can clearly enjoy the taste of chestnut. Also, it is perfect when paired with tea, especially Darjeeling tea.

Each cake is small and is not too sweet but a light cake. These are sweets quite simply made for adults. They also have a shop at Daimaru Shinsaibashi, so I urge you to go at least once and experience a blissful time.



CHARMを支えてください。

CHARMの活動拠点である事務局の運営は、皆様の会費と寄付によって支えられています。会員となって活動を支えてください。会員の皆様には年度末に事業報告書をお送りします。

会員手続きの方法

初めの方は、郵便振り込み用紙にご住所、お名前、会費の種類を記入の上、郵便局で振込手続きをしてください。銀行から振り込まれる場合は、ご住所、お名前、会費の種類を事務局にファックスかメールでご通知の上、CHARMからの返事を確認してください。

2年目以降の方は、機関紙と一緒に会費お支払いの願をお送りします。

Please support CHARM's activities by becoming a member.

We send an annual report to all members at the end of every fiscal year.

How to become a member:

New members – Please fill in the transfer slip with your name, address and type of membership before sending your membership fee through the post office. For bank transfer, please e-mail or fax your name, address and type of membership to CHARM.

Continuing members – You will receive a letter together with Charming Times from us requesting your renewal of membership every year.

会員の種類 Membership Types

一般会員	Regular	3,000円
賛助会員 A	Support A	3,000円
賛助会員 B	Support B	5,000円
法人会員1口	Corporate	10,000円



振込み先 Bank Transfer Information:

a) 郵便振替口座 Postal Transfer Account

口座名義 Acct Name 特定非営利活動法人CHARM

口座番号 Acct No. 00960-0-96093

b) ゆうちょ銀行口座送金 Japan Post Bank Account Money Transfer

【店名 Branch Name】ヨンゼロハチ

【店番 Branch No】408

【種類 Type】普通

【口座番号 Account No.】3655236

【口座名義 Account Name】トクヒ) チャーム

編集者: 青木理恵子、福嶋真一、Nicolle Comafay、田島千里

レイアウト: Till Heinrich イラスト: T. Miyamoto

発行: NPO法人CHARM 〒530-0031 大阪市北区営業町10-19

Tel/Fax: 06-6354-5902 office@charmjapan.com www.charmjapan.com